

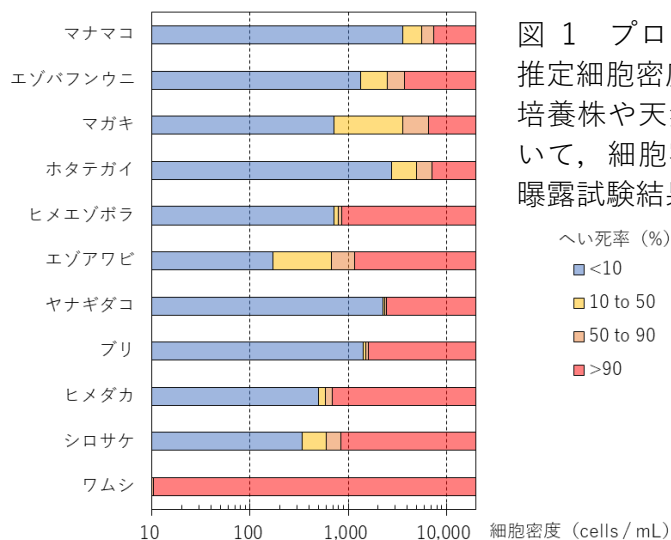


図 1 プロビット法にもとづくへい死率別の推定細胞密度.

培養株や天然赤潮海水を用いた曝露試験において、細胞密度別にへい死率が最も高かった曝露試験結果を抽出し推定.

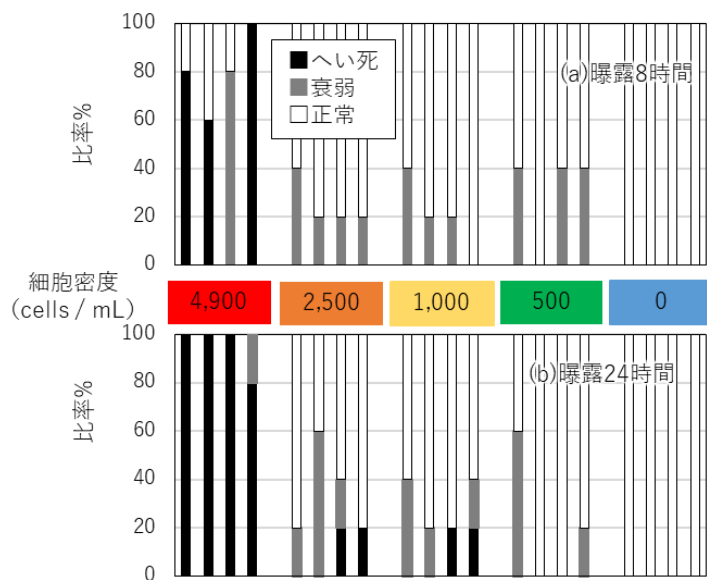


図 2 エゾバフンウニ曝露試験 (稚ウニ) における状態比率.

「衰弱」は試験中に付着力を一時的に喪失したものの、試験終了時 (96 hr) までへい死には至らなかった個体比率を意味.

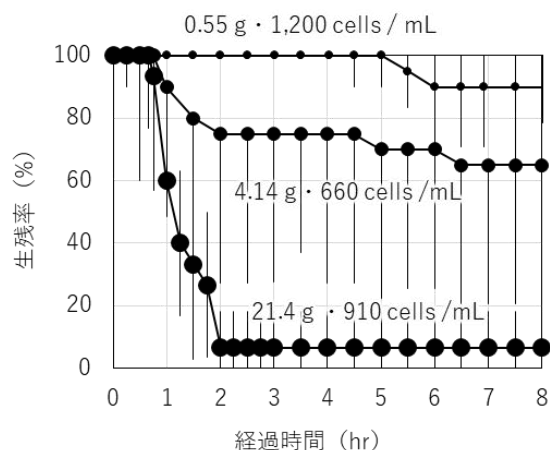


図 3 シロサケ稚魚の曝露試験における生存率の推移 (サイズ別).

数値は平均体重と細胞密度, バーは標準偏差を表す, 試験中はすべて曝露状態.

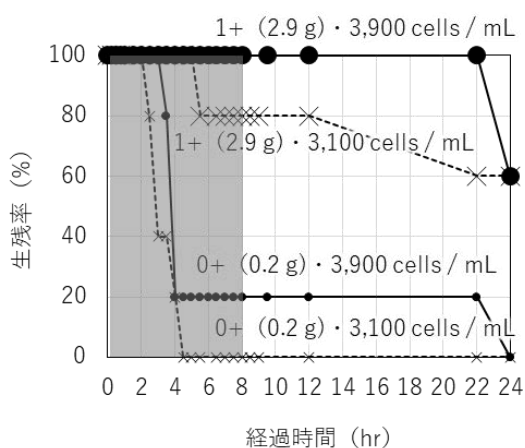


図 4 エゾアワビ稚貝の曝露試験における生存率の推移 (年齢・サイズ別)

数値は年齢 (平均体重) と曝露細胞密度を表す, 8 時間の曝露後はろ過海水で継続飼育.

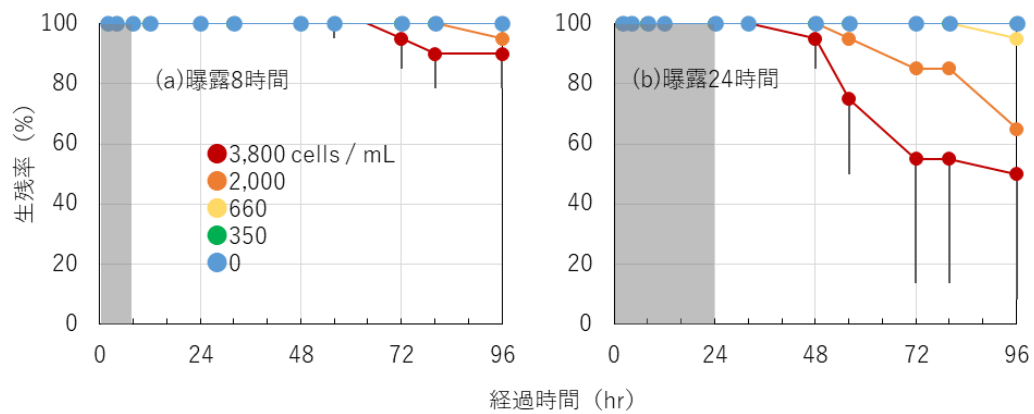


図5 マガキ稚貝の曝露試験における生残率の推移（曝露時間別）．
バーは標準偏差を表す，8 および 24 時間の曝露後はろ過海水で継続飼育．

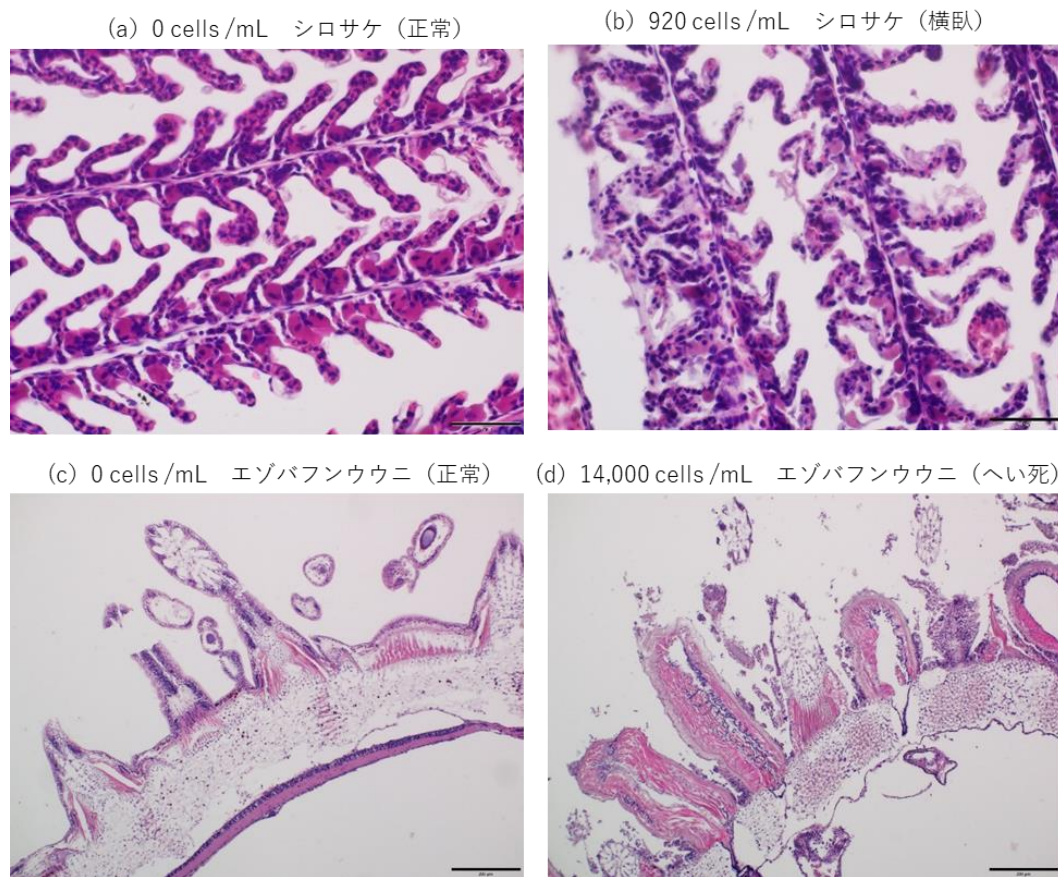


図6 曝露試験生物の組織像．

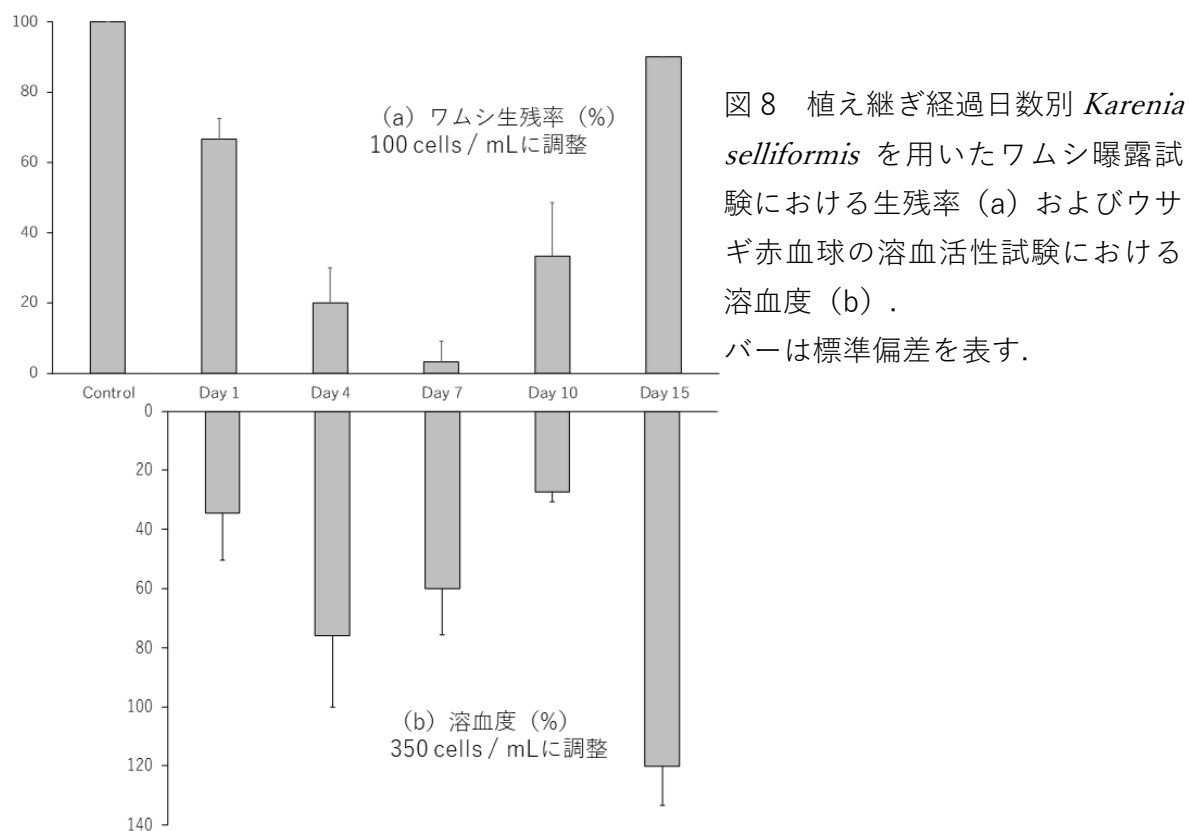
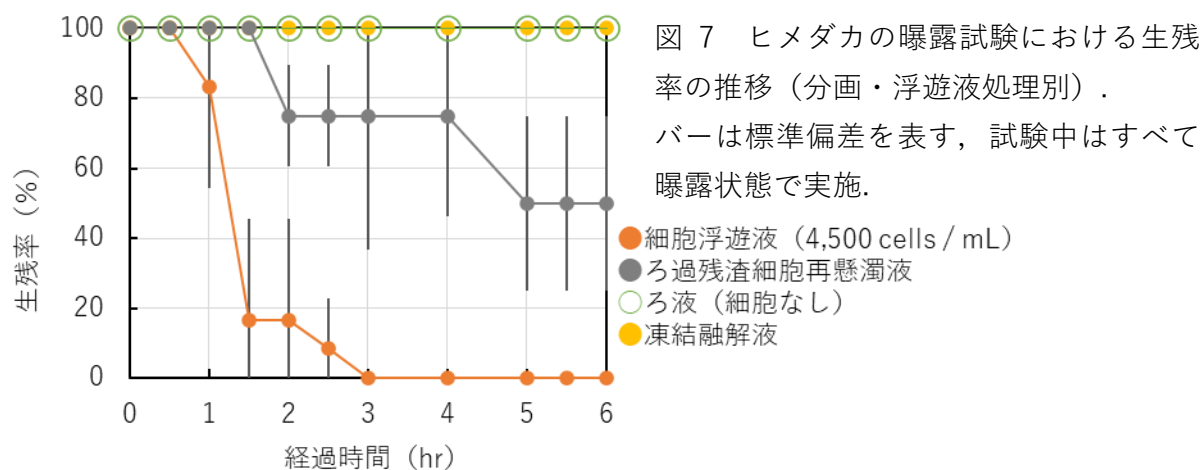


表 1. 分析および細胞毒性試験に供した *Karenia* 属の培養試料および濃縮率

培養株	種名	培養	細胞密度 cells / mL	試料量 mL	濃縮率
Ks-6	<i>Karenia selliformis</i>	通気	15,000	50	50
Ks-13	<i>Karenia selliformis</i>	静置	10,000	10	10
IMR-4	<i>Karenia mikimotoi</i>	静置	10,000	10	10

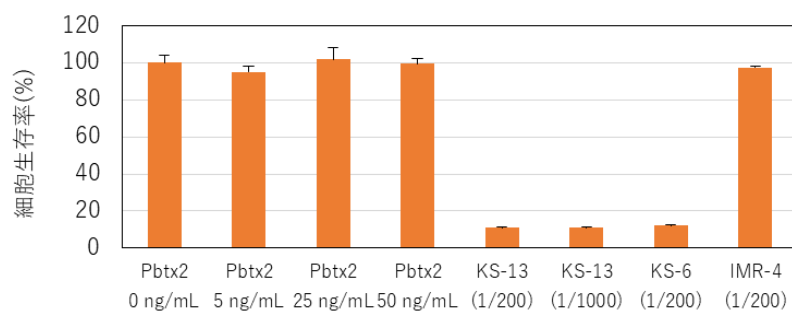


図9 *Karenia selliformis* および *Karenia mikimotoi* 培養株の濃縮抽出物および標準物質によるマウス神経芽細胞 (Neuro2A) 毒性試験における細胞生存率。

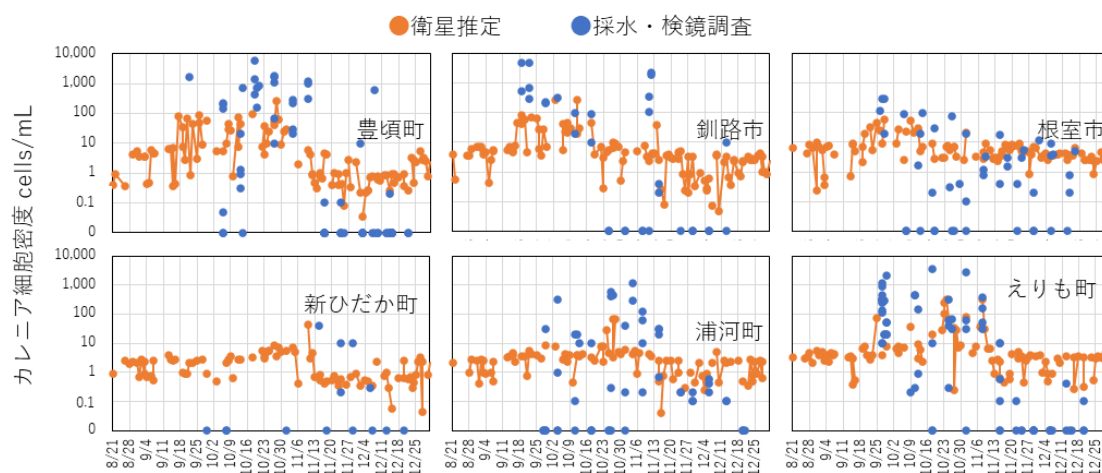


図10 衛星観測に基づいて推定された *Karenia* 属プランクトンの細胞密度データ (2021/8/20~12/31) および北海道が取りまとめた定点および臨時調査点における採水・検鏡調査の *Karenia* 属プランクトン細胞密度データ (2021/9/19~12/22), 一部データの抜粋。